

【研究概要】

脳内の標的部位に中大分子を送達する薬物送達技術の開発

（薬学研究科・岡田欣晃）

世界的な高齢化により、脳疾患に対する新しい治療薬が切望されているが、その開発は難航している。その主な原因に血液脳関門の存在がある。血液脳関門は、脳血管が持つバリア機能であり、低分子の脳内移行を防ぎ、異物侵入から脳を守る。一方で血液脳関門は、薬の候補分子の脳内移行をも妨げるため、脳疾患治療薬開発の大きな足かせとなっている。そこで我々は、中高分子薬を脳内に効率よく送達する技術の開発を進めている。